

持続可能なお寺を目指して

～ 多目的礼拝施設モデル ～

浄土真宗本願寺派総合研究所
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

ハウスメーカーが建てる納骨堂

— 北九州市の徳養寺を訪ねて —

『宗報』では毎号、「維持可能な伽藍建築の可能性」と題して、ミサワホーム・ダイワハウス・ヤマダホームズ・トヨタホーム各社による寺院建築のモデルをご案内しています。全国規模の研究開発能力を持つハウスメーカーだからこそ、新しい工法や材料を用いた「コストパフォーマンスの高さ」、「頑丈さ」、「快適さ」などが特徴です。

今回は実例として、この『宗報』記事がヒントになって施工された、北九州市にある徳養寺の「納骨堂」をご紹介します。

設計案の提示から一年で完成へ

徳養寺さんは、数年前に境内地の一角の地盤が沈下するというアクセシビリティにみまわれ、庫裏を建て直すことになりました。その際、庫裏に接合していた納骨堂の建物も新しい耐震基準に適合させる必要に迫られ、協議の結果、境内地の別



徳養寺本堂

の場所に新たな納骨堂の建物を建てることになりました。

そんな折、『宗報』の案内がヒントとなって、ダイワハウスへ建て替えを相談したのが、二〇一九年一月。その後、四月の総代会で複数の会社から提出された案を検討し、建物の性能やコストパフォーマンスの高さ、長期保証などから、ダイワハウスに依頼することになりました。八月に着工し、十二月には新たな納

骨堂の建物が完成しました。

十二月中旬、完成したばかりの納骨堂へ伺^{うかが}って取材しましたが、長年にわたって蓄積されてきた一般住宅建築のノウハウと納骨堂との、意外で絶妙な相性の良さが見られました。

現代的な一般住宅と納骨堂とのマリアージュ

テレビCMで「天井の高い家」というフレーズをお聞きになったことはありませんか。納骨堂の場合、大きな空間であっても、納骨壇が多数設置されると、天井と納骨壇の間のスペースが狭いため、どうしても圧迫感が生じます。従来の一一般住宅の工法では、天井を高くするには、鉄筋の頑丈な構造物にする必要があります。ただ、鉄筋の建築物は確かに強^{きょうじん}靱^{じん}ですが、室内に太い柱や梁^{はり}が出てきてしまいます。

今回取り上げた納骨堂では、最新の技術により、軽量鉄骨造であるものの、三メートル近い天井の高さが確保でき、かつわずかな柱しかないため、広々とした

空間を感じることができません。また、ダイワハウス独自の耐震構造技術（Zero2）により、十分な耐震強度も確保されています。

住宅なみの快適さ

冬季に納骨堂へ参拝した折、ブルツと体が震えた経験がないでしょうか。納骨堂は、住む空間ではないので、室温・湿度といった快適さの面が、どうしても軽視されがちです。しかし、納骨堂を訪れる方の中には、しばらく納骨壇の前でゆっくりしたいという思いの方もいらっしやいます。

今回の納骨堂では、一般住宅に用いられる気密性・省エネ性能が採用されているので、わずかエアコン一台で温かく、また涼しい快適な環境になり、納骨堂を訪れる門信徒の方々に、ゆっくりと安らげる場所を提供できています。現在の一



納骨堂内部

般住宅建築では、地球温暖化対策のための政府の政策により、従来よりもずっと少ない冷暖房エネルギーで快適な室内空間を実現することが求められており、ここでもそうしたハウスメーカーならではの強みが活かされています。

持続可能な加藍建築の必要性

北九州は、かつて鉄鋼業を中心として大きく発展してきましたが、産業構造の変化とともに、人口減少と高齢化が進んでいます。こうした中、高齢のご門徒の



納骨堂外観

方々に負担をかけたくないというのが、江田昭道住職ご夫妻の思いでした。ましてや、今回の納骨堂新築は、境内地に起きた地盤沈下という予期しないアクシデントが原因だったこともあり、ご門徒に寄付をお願いできないという事情がありました。

将来にわたって安定した潤沢な財源があれば大きく立派な納骨堂を建てることは簡単ですが、社会全体の高齢化・人口減少が進み、自然災害が頻発する時代に

あつて、限られた財源の中で、ご門徒の方々に喜んでお参りいただける納骨堂を作ることはなかなかの難題です。今回は、ハウスメーカーに協力いただくことにより、低コストながら、頑丈でゆっくり快適に過ごせる納骨堂が完成しました（床面積約一六〇㎡、建物価格約五〇〇〇万円、納骨壇数約三〇〇）。

ダイワハウスの一般住宅部門にとつて、これが全国で初めての納骨堂の建築だったようですが、一般住宅建築の先進

的なノウハウがお寺の施設の建築にも活かせることは、同社の担当の方にとつても、「驚きであり、喜びでもあった」そうです。

本堂その他の施設を大きな金額をかけて建築することが難しい時代になってきた中、多くの寺院が施設の新築・改築にあたって

色々な工夫をされています。今回は、ダイワハウスの一般住宅の技術を活かした納骨堂についてご紹介しましたが、「維持可能な伽藍建築の可能性」をヒントにして建築されている寺院施設が他にも報告されています。それらについても、引き続きご紹介していく予定です。

詳細は寺院活動支援部までお問合せください。